

2002年9月6日

株式会社 富士経済
〒103-0001 東京都中央区日本橋
小伝馬町2-5 F・Kビル
TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-6093
URL <http://www.fuji-keizai.co.jp>

- 2006年、外食産業総市場は34兆3,000億円(対'96年比93.2%)。1996年36兆8,124億、
2002年35兆6,000億円見込み と年々減少傾向をたどると予測 -

「外食産業マーケティング便覧2002」調査まとまる

上・下巻・CD-ROM 完成

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋 原 務社長)は、5 - 8月にかけて対象 関連企業、関連団体への面接を基本に一部アンケート調査を行い、このほど「外食産業マーケティング便覧2002」の調査報告書をまとめた。

この調査では、外食産業全体を14分野・117業態に分類しそれぞれの市場規模推移、シェア状況、メニュー戦略、食材動向などを集計分析し業態ごとの市場をきめ細かく観察できるようにした。報告書は上下巻の構成でCD-ROMでも提供する。

この調査は弊社が20年以上に亘って毎年継続調査を行っており、食品メーカー、商社、外食企業などから信頼を得ている。

外食産業市場は高度成長を遂げた70、80年代と安定成長に移った90年代前半を経て、98年以降毎年減少し続けている。

1996年の外食産業トータル市場規模は売上高36兆8,124億円であったが2001年の売上高は36兆270億円(対前年比99.4%,対'96年伸長率97.8%)、2002年は売上高35兆6,000億円の見込み(対前年比98.8%,対'96年伸長率96.6%)であり、2006年の売上高予測は34兆3,000億円(対'96年伸長率93.1%)である。

2001年はBSE(牛海綿状脳症)の風評被害が猛威を振るい、多くの市場で打撃を受け、更なるマイナス要因となった。デフレ状況の中、低価格化は一層進行したものの、消費者の志向は低価格だけではなく付加価値型の業態にも向かっている。また、新規参入とともに急成長を続ける新興勢力企業や黒船的存在の外資系企業によって否応なく新旧交代が促進され、市場の勢力図が塗り替えられようとしている。

2006年時点で14分野のうち拡大が予測される市場は少ない。

テイクアウト分野は4兆7,140億円(対'96年伸長率126.9%)、ファーストフード分野は2兆4,560億円(対'96年伸長率121.72%)、ファミリーレストラン分野は1兆9,530億円(対'96年伸長率116.3%)、エスニック料理分野は450億円(対'96年伸長率141.7%)など。

(財)外食産業総合調査研究センター発表値との相違について

外食産業販売額市場規模としては、2001年で約27兆円という数値が外食産業総合調査研究センターや日本フードサービス協会によって公表されているが、これらは狭義の外食産業を対象としており、宿泊宴会場の一部、交通機関の一部、レジャー施設の一部、料理品小売業などは含まれていない。弊社ではこれらも含めた**広義の外食産業**を調査しているため、数値が大幅に異なる。また、給食などの算出方法が他社と異なる。

主な調査のポイント

焼肉店 (焼き肉料理店、焼き肉ファミリーレストラン)分野

売上高推移は 1996年 5,445億円、2001年 6,144億円 (対前年比 99.3%)、2002年見込み 6,025億円 (対前年比 98.1%)、2006年予測 6,750億円 (対 '96年伸長率 123.9%)
70年代半ばの市場形成後一貫して市場規模を拡大させており、焼き肉ブームの中 '99年に 6,000億円市場に達した後も2001年 9月までは店舗数の伸びと同様に成長を遂げてきた。
しかし2001年 10月の BSE 騒動により市場は多大な打撃を受けており、2001年は前年割れを記録し、2002年もマイナス成長する見込みとなっている。但し、この動きは一時的なものと思われ、BSE 騒動が徐々に落ち着きを見せるとともに市場も回復し再び増加基調に転じるものと予測される。

コーヒーショップ分野 (高価格型コーヒーショップ、低価格型コーヒーショップ、多毛作)

売上高推移は 1996年 704億円、2001年 1,621億円 (対前年比 123.5%)、2002年見込み 1,975億円 (対前年比 121.8%)、2006年予測 2,515億円 (対 '96年伸長率 357.2%)
1997年以降店舗数はほぼ毎年対前年比 110%を超える出店ペースで増加している。1999年に 1,000億円市場に達した後も店舗数の増加率を上まわる勢いで市場規模は拡大し対前年比 120%を超える成長を遂げてきた。
1999年には 2割に満たなかった高価格型コーヒーショップの市場シェアが近年急拡大する動きを見せており、2002年には低価格型コーヒーショップの市場シェアを上まわる見込みとなっている。

アッパー居酒屋

売上高推移は 1996年 1,085億円、2001年 1,335億円 (対前年比 110.2%)、2002年見込み 1,406億円 (対前年比 105.3%)、2006年予測 1,590億円 (対 '96年伸長率 146.5%)
アッパー居酒屋は、客単価 3,800円以上 7,000円未満の居酒屋を対象としている。居酒屋の全体市場は、客単価が 2,500円前後の低価格型チェーンを中心とした市場構造が永らく続いていたが、旧態依然として変わり映えのしない低価格型チェーンに飽きた消費者の需要を、アッパー居酒屋が高い商品力とサービスレベルによって取り込んでいる。1990年頃からチェーン化が図られ、2000年以降には類似業態も含めて新規参入が急増しており、相乗効果もあって市場は活性化している。

宅配中華料理

売上高推移は 1996年 1億円、2001年 45億円 (対前年比 148.3%)、2002年見込み 61億円 (対前年比 137.1%)、2006年予測 210億円 (対 '96年伸長率 210倍)
'96年に、中華料理特有の調理を集中加工によって行い、加熱するだけの中華料理デリバリーをチェーン化して宅配専門展開が開始された。その後大手の資本参加により経営基盤を確立しエリアフランチャイズ制による各地への出店を加速している。大手 3チェーンとも拡大策を進行しており、今後はさらに参入も増加することが予測される。

調査報告書の構成

上下巻を通じて、14分野 117業態の分野分析ページと個別業態分析ページを設けて、分野別の市場規模推移、業態別市場規模推移・市場占拠状況、食材仕入高一覧、そしてメニュー・価格政策、客単価、注目企業・チェーン、市場の展望などをまとめた。

さらに下巻では、総合分析編として、外食産業総市場の市場推移から、分野別の売上高、店舗数の市場規模推移を集計した。ランキングでは、業態別の売上高、伸長率、1店舗当たりの売上高についてまとめた。その他に客単価の変化、近年の外食企業株式公開事例、外食産業界再編の最新動向、注目外食企業の研究にも触れた。

資料タイトル： 外食産業マーケティング便覧 2002

体 裁：A4判 上巻 180 ページ、下巻 204 ページ
価 格：上下巻各 99,750円(本体価格95,000円 消費税4,750円)
上下巻セット 189,000円(本体価格180,000円 消費税9,000円)
上下巻、CD-ROM 付セット価格 210,000円(本体価格200,000円 消費税10,000円)
発 刊 日：上巻 2002 年 7 月 19 日 下巻 2002 年 8 月 22 日
調査・編集：東京マーケティング本部ヒューマン・アクト・カパニーフードデベロップメント
「外食産業マーケティング便覧 2002」プロジェクトチーム
TEL:03-3664-5825 FAX:03-3661-6140
発 行：(株)富士経済
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 2 - 5 F・Kビル
TEL：03-3664-5811(代) FAX：03-3661-6093
e-mail:info@fuji-keizai.co.jp

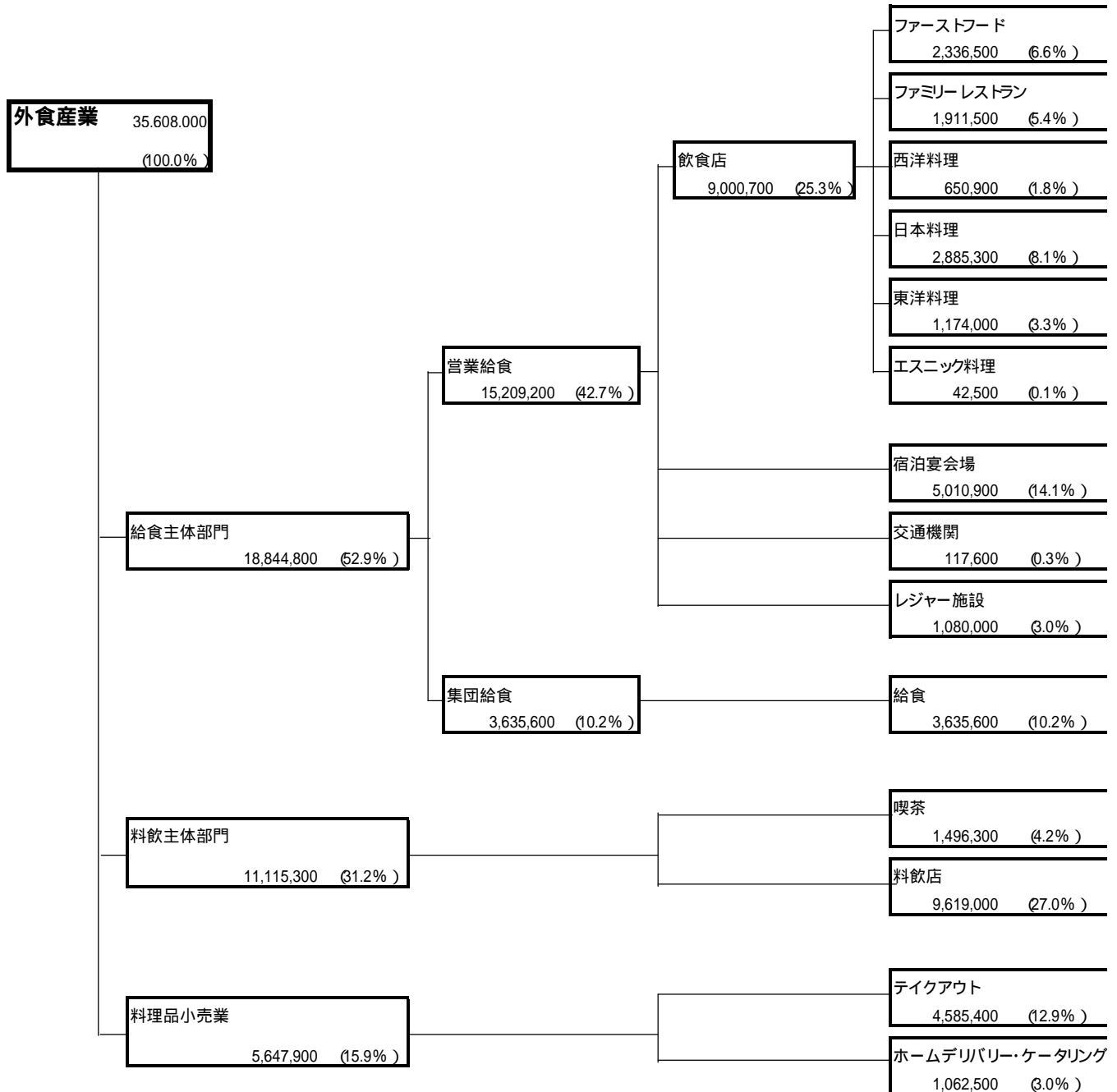
この情報はホームページでもご覧いただけます。URL <http://www.fuji-keizai.co.jp>

参考資料

2002/9/6

この資料に関するお問い合わせは株式会社富士経済広報部 平賀までお願いします。
TEL 03-5614-1078

(1) 外食産業 トータル市場 35兆6,080億円
(2002年見込み 単位:百万円)



② 調査報告書の構成

(上巻)

品目編 (7分野64業態)

A<ファーストフード> (19業態)

- 1 ハンバーガー
- 2 チキン
- 3 ドーナツ
- 4 サンドウィッチ
- 5 クレープ
- 6 アイスクリューム
- 7 ギョーザ
- 8 カレー
- 9 ステーキ
- 10 そば・うどん
- 11 回転ずし
- 12 たこ焼き・お好み焼き類
- 13 フードコート
- 14 牛丼
- 15 天丼
- 16 海鮮丼
- 17 定食チェーン
- 18 ラーメン
- 19 とんかつ・かつ丼

B<テイクアウト> (9業態)

- 20 テイクアウト弁当
- 21 おにぎり
- 22 テイクアウトずし
- 23 オープンフレッシュバーガー
- 24 デリカショップ
- 25 百貨店デリカ
- 26 CVSデリカ
- 27 量販店デリカ
- 28 シュークリーム専門店

C<ホームデリバリー・クーリング> (6業態)

- 29 宅配ピザ
- 30 宅配ずし
- 31 宅配弁当
- 32 仕出し弁当
- 33 パーティーケータリング
- 34 宅配中華料理

D<喫茶> (11業態)

- 35 低価格型コーヒーショップ
- 36 高価格型コーヒーショップ
- 37 喫茶店・コーヒー専門店
- 38 紅茶専門店
- 39 フルーツパーラー
- 40 ケーキ・パイ
- 41 多毛作
- 42 ベーカリーカフェ
- 43 甘味処
- 44 ジューススタンド
- 45 インショップカフェ

E<料飲店> (9業態)

- 46 居酒屋・炉端焼
- 47 アッパー居酒屋
- 48 アッパーミドル居酒屋
- 49 やきとろ専門店
- 50 ビアレストラン
- 51 地ビールレストラン
- 52 ディスコ
- 53 カフェバー・ショットバー
- 54 スナック・クラブ・パブ

F<宿泊宴会場> (5業態)

- 55 ホテル
- 56 ビジネスホテル
- 57 結婚式場・宴会場
- 58 旅館
- 59 民宿・ペンション

G<交通機関> (5業態)

- 60 駅食堂
- 61 列車内食
- 62 機内食
- 63 有料道路SA・PA
- 64 客船食堂

(下巻)

品目編 (7分野53業態)

A<ファミリーレストラン> (11業態)

- 65 標準型FR
- 66 高価格型FR
- 67 低価格型FR
- 68 和風FR
- 69 イタリアFR
- 70 中華FR
- 71 焼肉FR
- 72 ステーキ・ハンバーグFR
- 73 シーフードFR
- 74 チャンポンFR
- 75 百貨店食堂

B<西洋料理> (11業態)

- 76 高級フランス料理
- 77 ピストロ
- 78 イタリア料理
- 79 ピザレストラン
- 80 パスタレストラン
- 81 ドイツ料理
- 82 スペイン料理
- 83 ステーキレストラン
- 84 シーフードレストラン
- 85 サンドウィッチレストラン
- 86 オムレット・オムライスレストラン

C<日本料理店> (10業態)

- 87 そば・うどん
- 88 そば居酒屋
- 89 すし
- 90 うなぎ
- 91 てんぷら
- 92 とんかつ
- 93 すきやき・しゃぶしゃぶ
- 94 料亭・割烹
- 95 かに料理
- 96 ちゃんこ

D<東洋料理> (4業態)

- 97 高級中華料理
- 98 一般中華料理
- 99 点心料理
- 100 焼肉料理

E<エスニック料理> (3業態)

- 101 メキシコ料理
- 102 インド料理
- 103 東南アジア料理

F<給食> (6業態)

- 104 学校給食
- 105 病院給食
- 106 施設給食
- 107 (老人保険施設給食)
- 108 学生食堂
- 109 産業給食

G<レジャー施設> (8業態)

- 110 ゴルフ場
- 111 スキー場
- 112 健康ランド・スーパー銭湯
- 113 レジャーランド
- 114 野球場
- 115 ギャンブル場
- 116 カラオケボックス
- 117 スナック自販機

総合分析編

外食産業トータル市場規模推移 (8年間の店舗数、販売額と2005年の市場予測)
 カテゴリー別業態別売上高ランキング
 カテゴリー別業態別伸長率ランキング
 1店舗当たりの売上高ランキング
 注目分野別市場動向 (イタリア料理分野、すし分野、焼肉分野、コーヒーショップ分野)
 主要メニュー別市場規模
 食材別市場規模
 使用食材ランキング
 客単価の変化
 外食産業の株式公開事例
 外食企業の再編
 注目外食企業 (業態別市場規模推移、業態別ポートフォリオ)